

平成 26 年度 第 2 回エンデューロ委員会 議事録

【ダイジェスト版】

開催日：2014 年 11 月 12 日(水) 午前 10 時 30 分～午後 5 時

開催場所：東京・築地・MFJ 会議室(東京都中央区築地 3-11-6 築地スクエアビル 10F)

1. 委員会再編と 2020 年ビジョンについて

中央スポーツ委員会で決定された 2020 年ビジョンについて、事務局から説明された。

エンデューロは MX 委員会の下部部会から委員会として独立された。専門委員会では、それぞれの種目の責任をもって活動をして頂く。この他ロードレース、モトクロス、トライアルでは、新たにメーカー特別会員からの代表委員も選出され、業界全体で課題に取り組む体制が構築された。

さらに、競技用装備部会とヘルメット部会が統合され、メディカル部会・広報部会が新設された。安全対策を討するセーフティー委員会の設立準備を進めている。ワーキンググループで協議され中央スポーツ委員会で決定した、エンデューロ 2020 年ビジョンは以下の通り。

2020 年エンデューロビジョン (スポーツ委員会指針)

- 全日本エンデューロ選手権はオンタイム方式で国内で最もスキルの要求される競技とすべき。
- 底辺拡大の為には多くの参加者を受け入れ可能なクロスカントリー方式のレースを全日本エンデューロとは別に検討すべき。
- エンジョイ会員の安価設定を利用し、承認競技会を増やすよう各地区で活動をいただきたい。
- ナンバー付オフロード車の競技を活性。
- 加盟団体の参加告知協力(ショップへの告知等)。
- SNS での情報発信

2. 前回議事録の確認

2014 年度第 1 回エンデューロ委員会の議事録が提出され、承認された。

3. シリーズランキング報告

1) 全日本選手権シリーズ

MFJ 事務局より、2014 年度全日本選手権シリーズランキング、開催状況、昇格者が説明され承認された。
(最終戦 SUGO2DAYS 大会終了後、事務局より最終ランキングを報告する)

2) エリア選手権シリーズ

① 北海道エリア選手権シリーズのランキングが承認された。

IB:菅原勇太郎(IA 申請昇格) N:真田治、三本松洋介、大友秀樹、堀嘉尚、河村健太郎(IB 自動昇格)

② 西日本エリア選手権シリーズのランキングが承認された。

IB:柳原博一(IA 申請昇格) N:勝野善太郎、荒川一佳、三上祥雄、橋本学、山口誠之介(IB 自動昇格)

③ 東日本エリア選手権シリーズは、最終戦終了次第決定。

4. 開催状況等報告

1) データ

全日本選手権シリーズは、第 3 戦日高大会終了時点で、IA 前年比 88%、IB 前年比 87%、N 前年比 110%、W 前年比 173% であり、エントリー合計は前年比 109% と増加となっている。最終戦 SUGO2DAYS の参加状況は、承認併催と合わせ 125 台 (IA:14、IB:18、N:39、W:6、B:29、C:26) であった。

10 月 31 日時点でのライセンス登録者数は、前年同日に比べ国際ライセンスは 89% 減少したものの、国内ライセンスは 160% 増。エリア選手権シリーズの開催拡大により、ライセンス増加に大きく貢献したと検証され、エリア選手権の参加台数データが提出された。

2) 2014 全日本選手権シリーズ報告 (第 1 戦中国大会は、前回報告済)

① 第 2 戦近畿大会 (池尻審査委員長)

- ルートで一部幅の狭い箇所があり、TC5 で転倒者が続出した為渋滞が発生し、ファイナルクロス前に渋滞に巻き込まれた選手から抗議が提出され、審査委員会で審議した結果、IA と IB の TC5 タイムペナルティーがキャンセルされた。(あらかじめ渋滞の発生しないコース設定の徹底が必要)
- IA ファイナルクロスで、ヒューム管地点でコースアウトした選手が再コースインする際に先の地点から入ったとの申し出が他選手から競技運営側に報告されたが、抗議提出時間を過ぎていた為受理されなかったとの報告を受けた。
- 熱中症発生防止の為、主催者の判断により 10 ラップから 8 ラップに周回数を減少した。

意見

- 主催者
初開催でコースには慣れていたつもりだが、全日本となると様々なトラブルが出るのがわかり勉強になった。今年の反省点は、次回の大会時に改善し、より良い大会の開催を目指したい。
- 選手会
渋滞の発生によるタイムペナルティーキャンセルやファイナルクロスのコースアウト等の事例は、どの大会でも発生しうることであり、近畿大会のコース設定、周回数設定、タイム設定は、適切なものであった。
- 委員
あらかじめコースチェックで渋滞が発生しうる可能性のある箇所にはスタッフを配置できるとよい。ファイナルクロスにおいてコースアウトしそうな箇所にもスタッフを配置することが必要である。
現状規則では、出た箇所から戻ると規定されているが、物理的に戻ることが困難な状況や出た箇所から戻る場合、逆走等の危険走行をしなければならないことも想定される。規則として重要なことは、復帰の際に有利にならないよう安全に戻る事が規定として考える場合重要ではないか。

結論

- 現状規則通り、コースアウトした場合、「元の場所から戻る」ことを原則とする。
- 安全確認、一旦停止してコース復帰しなければならない。
- コースが外れる可能性が高い箇所には、必ずスタッフを配置させること。
- コースアウトしてからコース復帰する際は、有利になってはならない。
(例) 順位的に有利であってはならない、タイム的に有利であってはならない。

② 第 3 戦日高 2DAYS 大会 (石井審査委員長)

- コースが広く設定も良かったが、前日までの雨の影響もありタイム設定が難しい判断だった。
- オーロラビジョンが準備され、テストやファイナルクロスの映像が流され、待機選手からも飽きずに競技が楽しめる趣向で工夫されていた。

意見

- 主催者
事前の難易度の設定には苦労した。集計のミスが 2 点発生したことやリザルト発表に時間を短縮させる為、

今後の改善として集計システムを変更したいと考えている(ファイナルクロスの集計、タイムカードの読み違い)。また、フリーライドツアーを実施したが、間違っ て SS のテストに参加者が進入する手違いがあった為、今後は改善したい。1 時間のオーバータイム規則によりファイナルクロスが始められなかったが、ファイナルクロスのスタートの時刻を放送または事前にタイスケに公示する等、選手に対応していきたい。

本部派遣の審査委員長が事前にコース視察を実施し、修正できたことは大変有効であった。

● **選手会**

参加選手の多くは、トランスポンダーを使用しない大会における測定タイムは信憑性に疑問を感じている印象だった。分岐地点で一部表示がわかりづらい箇所はあった為、表示をシリーズで統一化してほしい。

結論

- コースマーカーの表示は、全戦統一化する。

5. 2015 年度主要競技会日程調整と各地区部会報告について

MFJ 事務局より、2015 年度主要競技会の開催案が提出された。

1) 主要競技会暫定カレンダー

Rd. チーズナッツパーク(福島県) ※4 月～5 月で調整、SUGO2DAYS までに決定

- チーズナッツパークは、全日本開催規定を熟考して 2016 年以降に再検討することとし、2015 年は行わない。他会場での開催を模索し、シリーズ 4 戦の確保を引き続き検討する。

Rd.② 7 月 12 日 近畿大会(プラザ阪下)※全 MX と日程重複を避け変更したが、さらに会場都合の為再変更。

Rd.③④9 月 19-20 日 日高 2DAYS ※スタッフの都合により同一週の祝日に変更の場合あり(11 月中決定)

Rd.⑤⑥11 月 21-22 日 SUGO2DAYS

ISDE スロバキア 9 月 7-12 日

WeRide 三宅島(特別競技会) 11 月 14 日～15 日

※中国大会は、エリア選手権開催等地元地区活性化対策に注力する為、2014 年度全日本は開催しない。

- 最終戦にて東北大会が開催しないことが決定した為、2015 年の全日本開催について、再検討して頂くようエンデューロ委員会より依頼された。
- 後日、日程調整に関する協議が行われ、5 月 10 日に広島大会(Rd.①)が開催されることが決定した。

2) 東日本エリアシリーズ暫定カレンダー

Rd.①チーズナッツパーク(4～5 月)

Rd.②深山クロス SUGO(7 月)

Rd.③④チーズナッツパーク(9 月～10 月)

Rd.⑤⑥SUGO2DAYS(11 月 21～22 日)

※山梨県クロスパーク勝沼で 1 戦開催を計画中。(関東モトクロス会議にて日程確定後日程調整したいとの意向)

※クロスパーク勝沼について

関東 MX 選手権開催、JEC ライツ開催等の実績があり、関東や中部などのマーケットが期待できる。オーナーも ED 東日本エリア開催には理解して頂いている。大会開催については、東北 ED 部会が中心で調整される予定。

3) 東北 ED 部会会議報告

- 今月末の SUGO2DAYS 大会のエントリーを見ても、被災地である地元の参加者も徐々に戻ってきている印象。
- 東北地区では開催地が減少し、新規会場を探している状況。JEC サイトに協力して頂き、新規会場の開拓風景や主催者の想いを込めたコメント等の告知を行うと、より参加者へメッセージが伝わるのではないかと。また、JEC サイトで、パド

ック内の車中泊における注意事項を掲載することも有効的である。

- エリア戦は、様々な競技規則で実施ができることがメリットなので、よいロケーションの会場を見つけエリア戦を開始、そこから全日本に発展できることが理想である。なお、SUGO では簡単に周回できるレースを実施して行き、初心者向けのレースを走らせつつけていきたい。
- 今後も情報配信を強化し、特にエリア戦については細かい情報を発信するよう環境を整備する。

4) 北海道

今年はエリア選手権シリーズを 8 戦実施した。来年は 3 会場で開催を予定しているが、まだ未定。会場は、森林組合等の許可を要するなど調整が必要な場所は多く、新会場の開拓も問題は多いのが現状。エンデューロ部会としては、モトクロス・トライアルと合同でライディングスクールを開催する計画もあり、ユーザー増加に貢献する活動を検討中。

5) 関東

11 月 15 日～16 日に、MFJ 特別競技会「We RIDE 三宅島」が今年も実施され、石井部会長が現地に行くことが報告された。約 85 人の参加があり、コースも非常に楽しんでもらえるコースとなっている。来年も 11 月 14 日～15 日に継続開催を予定している。

6) 中部

全日本開催会場は引き続き探索中であるが、いなべモーターランド(三重県)やコスモスポーツランド(富山県)、スターフォレスト(長野県)などエリア選手権が開催できそうな会場候補はある。いなべはモトクロスコースの為エンデューロコースとして若干修正が必要と思われるが、アクセスは非常に良い。コスモはエンデューロ大会開催の実績もあり、大変走りごたえのあるコースである。スターフォレストは、長野県なので関東区内であるが、中部からのマーケットも多く、約 1 周 3km のヒルクライムやセクションがあり、オンタイムなどの競技が期待できる。

7) 近畿

プラザ阪下以外では、ウッズ下市(奈良県)がエンデューロに興味を示してくれており、エリア選手権の開催を検討中。

8) 中国

来年は、全日本選手権シリーズの開催は休止し、エリア選手権の開催に集中し、地元地区での普及活動を推進する方針。西日本エリア選手権は、テージャスランチ(広島県)と琴引スキー場(島根県)をはじめ、新会場も視野に入れて調整する。

9) 九州

2015 年から西日本エリア選手権シリーズから外れ、九州エリア選手権シリーズとして全 8 戦を予定している。ナンバー無クロスカントリー方式を 5 戦、ナンバー付オンタイム方式を 3 戦開催予定。九州エンデューロ部会の構成も再編され、オンタイム競技の普及を推進していく方針。エリア選手権でオンタイム方式を広め、2017 年頃を目標に全日本選手権の開催を視野に入れている。

意見

- 選手がより出場しやすい環境とする為、今回の九州の様に地区ごとの選手権開催が望ましい。
- 中部と近畿で1つのシリーズ、中国と四国で1つのシリーズとしていくべき。

結論

- 2015 年は、西日本シリーズを中部・近畿・四国・中国とするが、2016 年は中部・近畿で単独シリーズ立ち上げを目標に調整を進める。
- 各エリア選手権シリーズランキングは、各地区ごとにポイントを集計し、随時、最新のシリーズランキングを JEC サイトにアップさせる。
- エリア選手権シリーズおよび全日本選手権シリーズの情報は、JEC に随時集約させ、JEC サイトで情報を公開するよう統一解釈された。

6. 計測システムについて

春木委員より本会議での提案の経緯について説明され、MYLAPS からシステムの紹介が行われた。2009 年より JEC への導入に関し MYLAPS と協議が行われていたが、予算的な問題等で現状まで実現されていないものの、メーカーも新たな料金体系や企画製品がリリースされていることやヨーロッパ ED 競技会をメーカー自ら視察に行かれた内容の報告をして頂けるとのことで、説明する機会が設けられた。

結論

エンデューロに導入していくにはスタッフのトレーニング等必要ではあるが、ハードウェアの導入に対しては比較的簡単である。今後他社との比較を含めて今後検討していくことが確認された。

7. 国内競技規則（改訂案）

1) 事務局からの報告

- 競技会 WEB 申請が、12 月をメドにスタートする予定である。(振込手数料は、MFJ 負担)
- 15 年 1 月 1 日以降、競技会申請期限が変更される。
 - 世界選手権、国際大会、全日本 … 前年 11 月末まで
 - 準国際競技会、特別競技会、エリア・地方選手権 … 前年 12 月末まで
 - その他公認競技会、承認競技会、承認行事 … 開催日 1 か月前まで
- 15 年 1 月 1 日以降、観客賠償責任保険の増額に伴い、競技会申請料が変更される。
 - ED 全日本選手権、ED エリア選手権 … 23000 円
 - 承認競技会、承認行事、走行会 … 17000 円
- ライセンス講習会の申請手続きが年間 1 回のみ 2000 円とし、何度でも講習会開催が可能となる。
- 2015 年 4 月からエンジョイライセンスの料金が 3350 円(C 区分)、2300 円(A-1 区分)に改訂(値下げ)される。

2) 2015 年度規則改訂点（決定事項の報告）

① コース設営のコンセプト

- 難易度高(走り応え重視) … 全日本 IA、IB、N
 - 難易度低(全員が楽しめることを重視) … 全日本 W、承認 B、C、W
- ※すべての天候に対応できること

② クロステストの告知

29 テスト 「使用される 48 時間前までに」 → 「事前に」へ変更

③ 失格の裁定

エンデューロ競技規則内で、必要な個所に、「282 ページ ペナルティリスト参照」の文言を追記する。
追記箇所の例 … 275 ページ 16-1-9 他

④ ウェアラブルカメラの使用禁止

モータースポーツ以外でも負傷事例が発生しており、FIM でも安全が確認される為使用禁止となったヘルメットカメラの装着について、競技用装備部会で禁止が決定されたことが報告され、ED 委員会では、身に着ける(ヘルメット・ゴーグル・ウェア・グローブ・ブーツ等)ことは禁止とされるが、車両は認められることが決定した。

⑤ ヘルメットの公認期限

競技用装備部会において、すでに流通していない旧製品やすでに活動していないメーカー・販売店について国

内競技規則より削除することが決定したことが報告された。

3) 審議事項

① 安全対策について

立ち入り禁止看板との併用が望ましいが、設営する側の負担がふえるため、当面コーステープで賄っていく。コーステープは協賛も減少し、状況は厳しい。MX 北海道にて発生した事故例(映像)が確認され、今後 ED でも発生が懸念され、事故が発生した後は、テープが設置していたか、ネットがあった等が問われるため今後慎重に検討していくこととなった。他種目同様今後は安全面にはかなり力をいれていく予定である。

結論

コーステープや安全ネットの設置などに関する JEC へのサポート条件について、2015 年度全日本カレンダーと会場が決定次第、必要本数や個数が決定した後、本部事務局にて協議を進める。

② タイヤ規制について

現状 FIM スタンダード規則がすべてのクラスで適用されているが、全日本上位クラスに限定したらどうか？との提案がなされ、選手会の意見等を基に継続審議されていた。

結論

現状通りの規則とし、大会やクラスによって特別に MX タイヤの使用などが認められる場合は、これまで通り SR で公示することが決定した。なお、車検時のチェック用として、2015 年シーズンからは、JEC プロモーション中西氏が情報収集し、「使用可能タイヤリスト」を作成、JEC サイトで選手向けに公示することが決定した。

③ 全日本ウィメンズクラスについて

2014 年度全日本第 1 戦において、ルート難易度について参加選手から意見があり、民主的な観点から主催者は選手の要望を受け入れ、全日本ウィメンズクラスの設定を承認クラス同等に変更して開催した。ウィメンズライダーは、全日本ナショナル、承認 B、承認 C、承認 W など出場クラスの選択肢もあることから、全日本ウィメンズクラスの在り方について議論された。

意見

- あくまで全日本格式で開催されている前提なので、ナショナルクラスと同等に設定すべき。
- 平均参加台数を考慮すると、承認 W に統一することが望ましいのではないか？
- ナショナルクラスと混走で、ランキングだけ分別させたらどうか？章典を分けてはどうか？
- 女性選手の増加を目的にクラスが設定されている為、継続して行われるべき。
- (エントラント意見) 選手は、自分の実力を知り、クラス選択をするのが当たり前。主催者への変更要望はすべきではない。
- シーズンインしたら方向性は変えない方針でお願いしたい。

継続審議

全日本ウィメンズは継続するが、難易度は全日本ナショナルクラス同等の設定で統一解釈(前回決定したコース設定のガイドラインを修正し、全日本ウィメンズは、ナショナル同等のレベルとする)とすべきかどうか？については継続審議とされた。

4) 規則改訂案

① ポイント集計について

268 ページ 7「ポイント集計」7-2

「2 日目も以下の条件において」の条件部分の表記が抜けていた為、以下の通り改訂する。

「2 日間で構成された競技会で、大会初日に順位を得られなかったライダーは、2 日目も 8スタートに記載されている条件下において、スタートが許可される。

② 大会運営について

14-1 車両の変更 以下文章へ差し替え

「エントリー締切日以降、参加クラスの変更はできない。車両を変更する場合は、その理由を明確にし、書面で提出しなければならない。変更申請手続きは、第 1 回公式車両検査開始時間の最低 24 時間前までに大会主催者に提出され、競技監督および審査委員会にて承認されなければならない」

③ テスト

279 ページ 29 テスト 29-1、29-2

- クロステスト、エンデューロテストともに、「スタートゴールが隣接し」を削除する。
- クロステスト、エンデューロテストともに、「目安とする」の文章を追加する。

④ 規則文章削除

26-7 の文章で、以下部分はオーガナイザーが行う作業の記述である為、規則書からは、削除する。

「各タイムチェックにて、オーガナイザーは時間順に記載されたチェックリストに通過したライダーのゼッケン、通過時間(分まで)を記載する。事前にライディングナンバー順にライダー名が記載された通過管理リストは認められない。」

⑤ 31 テストのスタート方法

テストスタート前に、一時停止を行うことを追記。

- 「ライダーは一時停止し、スタートの合図を受けてから 5 秒以内にスタートしなければならない。
- 「※スタート前に一時停止しなかった場合、ペナルティが課せられる」

⑥ 33 ペナルティリストから以下部分を削除と訂正

33-3 「一スタートに 60 分以上遅れる」 ← 削除

「一他のライダーと同行した」 → 「リタイヤしたライダーが他のライダーと同行した」

5) 事務局からの報告

① メディカル部会 決定事項の報告

➢ 13 ページ「競技会」 13-1-1-4

「負傷しているライダーは、主催者の指定する医師の競技参加の承諾を得ているもの」を削除。

➢ 14 ページに以下項目を新規追加する。(以後項目番号変更)

1. ライダーは常にマシンを安全にコントロールできる状態でなければならない。安全にマシンをコントロール出来ない状態であると主催競技団から判断された場合、本人または他のライダーに危険を及ぼすことから出走は認められない。
2. 競技中受傷した場合、走行復帰に際しては主催競技団の許可を得なければ出走できない。
3. 競技中の転倒等により意識を失った場合、また意識があっても脳震盪と認められる場合当該大会において出走が認められない。
4. 当該大会において熱中症の症状が認められる場合、出走が認められない。
5. 競技参加前に負傷している場合(以前の大会での負傷が完治していない)主治医または大会時のドクターチェックを受け、大会競技団より出走の許可を得なければならない。

② ライダーの健康に関するガイドラインについて

➢ 脳震盪について

脳震盪は頭部への直接または間接的な衝撃によって起こる脳機能障害です。

特に短期間に二度の脳震盪を起こすことは非常に重大な障害をもたらす恐れがあり、また、症状を抱えたまま走行することは他のライダーに危険を及ぼす恐れがあり、転倒などで脳震盪となった場合の競技復帰について以下のような指針を設けます。走行の可否は当該大会の医療関係者、競技運営団が判断します。

- 熱中症について
日体協の資料から抜粋した内容を規則書に追記する。
 - 負傷からの競技復帰に関して
負傷から復帰するに際しては医療機関にて担当医師にレース復帰について確認をとること。
次大会の競技前にメディカルチェックを受ける、または医師の診断書の持参を要求する場合がある。
 - ドーピング委員会の名称変更について
ドーピング規則で「本協会ドーピングコントロール委員会」となっている部分を「本協会メディカル部会」に変更する。
- ③ 競技会のエントリー用紙について
全日本モトクロス選手権等で採用されているエントリー用紙の裏面誓約書について、以下文言を削除する。
「尚、この事は事故が主催者又は大会関係役員の手違いなどに起因した場合でも変わりありません。」

- ④ ライセンス講習会修了証の有効期限変更となることが承認された。
現状:6ヶ月 → 変更後:1年間

- ⑤ 競技役員ライセンスの2級から1級への昇格

変更箇所

2級を取得後、各種目(他種目との合算は不可)において、実務ポイント50点以上となり、かつ全日本選手権以上の大会で2回以上、正または副長に従事し、MFJ各種専門委員会が認めた者。

※上記一部分を削除することが承認された。 ※↑「中央スポーツ委員会」から改訂

- ⑥ エンデューロ国際ライセンスの統一解釈

現状規則で、他種目の国際A級ライセンスを所持している者は、エンデューロ国際ライセンスを申請だけで登録することができ、インターナショナルBクラスに出場ができるが、最低年齢の制限について規則書に明記されていない為、統一解釈として最低年齢を設けず16歳以下の者でも他種目の国際A級に登録されていればエンデューロ国際ライセンスを申請のみで取得を可能とすることが確認された。但し、公道を含む競技会の場合は、当該車両を運転可能な運転免許証を所持する者に制限されることとする。

6) 選手会からの要望

- ①「JEC全体のボリューム(疲労度)不足」

- 現状の国内選手のレベルアップを図る為にも、各大会のボリュームをもっと上げるべき。(ISDEに近づけるべき)
- IAは次のステップに進むことを考えなければならない(世界に通じるレベルアップ)
- 難易度を上げるのではなく、周回数を増やす等でもっと疲労度を高め、鍛えていく環境づくりが重要。
- ファイナルクロスの実施よりもエンデューロ的要素を味わう部分を優先させてもよいのではないか。

- ②「テスト区間の距離延長」

- 海外ではひとつのテスト区間で10分を越えるボリュームを持つ大会もある。
- テストの数を増やすという意味ではなく、ボリュームを増やしてほしい。

結論

国内の競技会主催者や会場の事情も考慮しつつ、選手のレベルアップの課題のひとつとして、エンデューロ2020年ビジョンとして継続的に検討していく。

8. その他確認事項

① ISDE について

- MFJ 事務局より 2014 年度 ISDE のリザルトが報告された。
- クラブチームで過去最高位を獲得した「Team KOMATSU JAPAN」にベルナード賞を贈呈することが決定した。選手会より、好成績を獲得した背景には、他に出場した日本人選手・スタッフの協力があった為であるとの意見が発言され、「Team KOMATSU JAPAN をはじめとする 2014ISDE 出場日本選手・スタッフ」であることとし、トロフィープレートへの表記は、JEC にて決定することとした。また、藤原部会長がプレゼンターを務め、受賞者として登壇する者の人選は、JEC にて最終戦までに調整することが報告された。
- 2015 年度 ISDE トロフィーの選出については、規則書通り、MFJ 事務局より有資格者に意志確認の案内が発送されることが確認された。

② エンデューロオンタイム競技方式の促進(冊子の作成)は、草案が提出され後日確認頂き連絡頂くこととなった。

③ 日露青年モータースポーツ交流の実施報告について

春木委員より、8 月 14 日～20 日に北海道留寿都村で開催されたサハリン州(ロシア)と北海道のモータースポーツ交流内容が報告された。来年はロシアに日本選手が行き、交流が行われる予定。

以上

17 時 00 分閉会

エンデューロ委員長 藤原広喜